

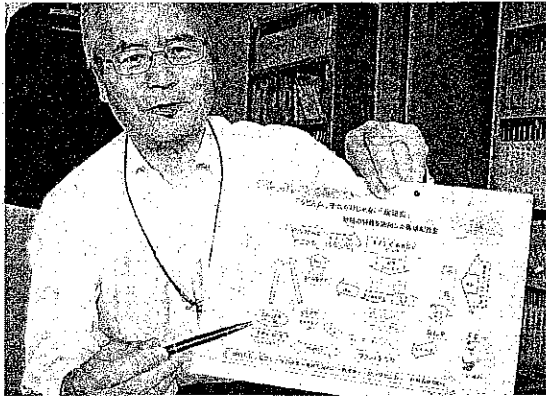
## 研究の現場から

### 廃棄うどんを燃料・肥料化

循環型社会の実現に向け「うどん県」らしい取り組みを始めたのが、環境NPOやうどん、機械の各メーカー、学識経験者で作る「うどんまるごと循環コンソーシアム」(角田富雄会長、高松市)だ。廃棄うどんを燃料化したり肥料化し、うどん店などで利用するプロジェクトを進めており、環境意識の普及啓発を目指している。

香川県では、うどん生産量が多い分、製造過程や営業後に出る廃棄うどんの量も多い。有料で焼却処分するうえ、食べ物の無駄にもなる。業界が抱える課題を受け、同市の機械メーカー「ちよだ製作所」などが、廃棄うどんから灯油や重油の代替燃料となるエタノールを取り出す装置を製作。まだ実用化に向けて研究中だが、有志でいち早く運用する「うどんまるごと循環プロジェクト」を始めた。

プロジェクトでは、メーカーやうどん店から廃棄うどんを月約600kg回収し、200ℓのエタノールを製造。うどん店1店舗の一部燃料を賄う。また、装置で同時に作られる液肥は、県農業試験場で県産うどん用小麦「さぬきの夢」、近郊農家で薬味となる



うどん資源を循環させるプロジェクトについて説明する角田会長

青ネギの生産に使う。うどん資源を循環させようという試みだ。

ちよだ製作所の工場見学や、エタノール燃料で沸かした鍋で手打ちうどんをゆでる体験もできるエコツアーを計画するなど、広報活動にも力を入れていくという。

角田会長は「このプロジェクトで県民の意識を高め、家庭ごみの削減などにつながれば」と期待を込める。うどんを愛する県民が、うどんからできる燃料や肥料を使う。この取り組みが、再生可能な資源の利活用も合わせ、定着・拡大すれば、「うどん県」に続き「環境県」と胸を張れる日も来るかもしれない。【馬淵晶子】

うどんまるごと循環コンソーシアム 角田富雄会長

24.6.13 毎日新聞